

新野遺跡

——市道篠井間山線の拡幅工事に伴う発掘調査報告書——

2010年7月

中野市道路河川課
中野市教育委員会

例　　言

- 1 本書は中野市大字新野字前田81番地に所在する新野遺跡発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は平成22年6月21日～6月28日にわたって実施した。
- 3 本調査は中野市道路河川課が~~中野広域シルバー人材センター~~に委託して行った。中野市教育委員会は本調査の指導にあたった。
- 4 調査区のグリッドは2m×2m単位で、東西にA～B、南北に1～42と表示した。
- 5 本報告書の執筆は関孝一の指導のもと吉原佳市が行った。
- 6 トレースは岡田良幸、写真撮影は吉原佳市が担当した。
- 7 本遺跡の出土遺物、写真等の記録資料は中野市立博物館で保管している。

目 次

例 言

第1章 経 過.....	1
第1節 調査に至る経過.....	1
第2節 調査日誌.....	1
第2章 遺跡の位置とその周辺.....	3
第1節 遺跡の位置と自然環境.....	3
第2節 周辺の遺跡.....	4
第3章 遺構と遺物.....	6
第1節 遺 構.....	6
第2節 遺 物.....	7
(付) 新野遺跡について	8

挿図目次

第1図 グリッド設定図.....	2
第2図 遺跡の位置図.....	3
第3図 周辺の遺跡分布図.....	4
(表) 新野周辺の遺跡地名表	5
第4図 層序断面図.....	6

写真図版目次

図版 1 遺跡遠景.....	13
図版 2 調査区全景（調査前）.....	13
図版 3 作業風景.....	14
図版 4 調査区 1 全景（調査後）	14
図版 5 調査区 1 層序.....	15
図版 6 調査区 2（搅乱状態）.....	15
図版 7 出土遺物 1（縄文時代土器）.....	16
図版 8 出土遺物 2（土師器）.....	16

第1章 経過

第1節 調査に至る経過

中野市では、平成22年度に社会資本整備総合交付金事業として市道篠井間山線の拡幅工事を計画した。工事計画区内は新野遺跡のほぼ中央部にあたり、工事が遺跡に影響を及ぼすことから、6月18日新野遺跡調査指導委員会のもとで遺跡の保護協議を行い、遺跡の記録保存することとした。

新野遺跡発掘調査指導委員会

委員長	関 孝一	調査団長
理事	中島庄一	中野市立博物館長
タ	町田 茂	中野市道路河川課長
タ	高野澄江	㈳中野広域シルバー人材センター事務局長
タ	町田郁大	中野市教育委員会生涯学習課長
委員	吉原佳市	調査主任
タ	小嶋昭一	中野市道路河川課係長
タ	池田 徹	㈳中野広域シルバー人材センター主任
タ	佐々木正	中野市教育委員会生涯学習課課長補佐

新野遺跡発掘調査団

団長	関 孝一
調査主任	吉原佳市
調査補助員	岡田良幸
事務局	池田 徹 山岸祐祐
(発掘調査参加者)	
石井 博 梶本勝雄	大塚加津美 鈴木英一 田村多恵子 徳竹知徳

第2節 調査日誌

6月21日（月）

本日より調査開始。器材搬送後に調査を開始した。バックホーにて掘り下げ層序を確認したが、礫が大量に混入し川砂も見られた。黒色土層も一部確認され土器片の出土もあったが、遺構となるかは不明。数箇所からの差し水があり調査区の水没が懸念された。

6月22日（火）

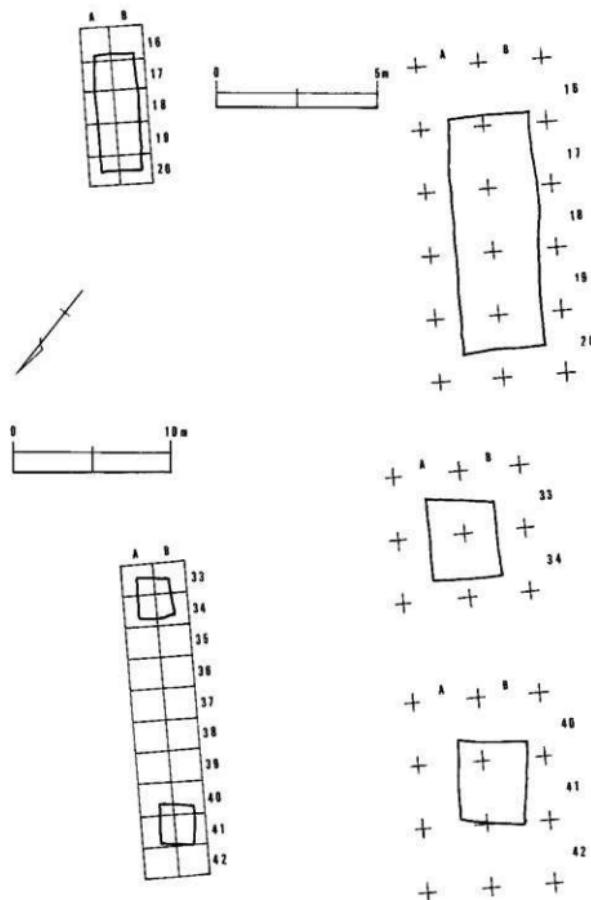
前日の調査区域に多量の水が溜まっており、排水ポンプを設置した。このため調査開始が若干遅れる。黒色土層より土器片10数点出土したが、縄文土器、土師器等同一面で出土するため層位の区分は判然しない。

6月24日（木）

A16、B17グリットの黒色土を掘り下がたが、水分を含んだ粘土質である。A33、A41をバックホーで掘り下がたが、搅乱された状態で遺物包含層の黒色土を確認できなかった。

6月25日（金）

写真記録。層序等の測量を行った。表表面より約260cm掘り下げたが遺構の検出もなく、壁面の崩落等危険な状況のため調査は本日で終了した。



第1図 グリット設定図

第2章 遺跡の位置とその周辺

第1節 遺跡の位置と自然環境

遺跡は長野県中野市大字新野字前田81番地に所在し、中野市東南端の間山扇状地に位置する。間山扇状地は真引川と十二川により形成された扇状地で、遺跡は真引川流域に所在する。真引川と十二川は扇状地末端で篠井川に合流し、篠井川は千曲川へと西流する。この篠井川は千曲川とともにしばしば氾濫したが、上流から多量の沃土を運搬・堆積したため、肥沃な延徳沖低地を形成し、豊かな水田地帯となっている。



第2図 遺跡の位置図

第2節 周辺の遺跡

新野遺跡が所在する間山扇状地周辺の遺跡は第3図のとおりである。



第3図 周辺の遺跡分布図

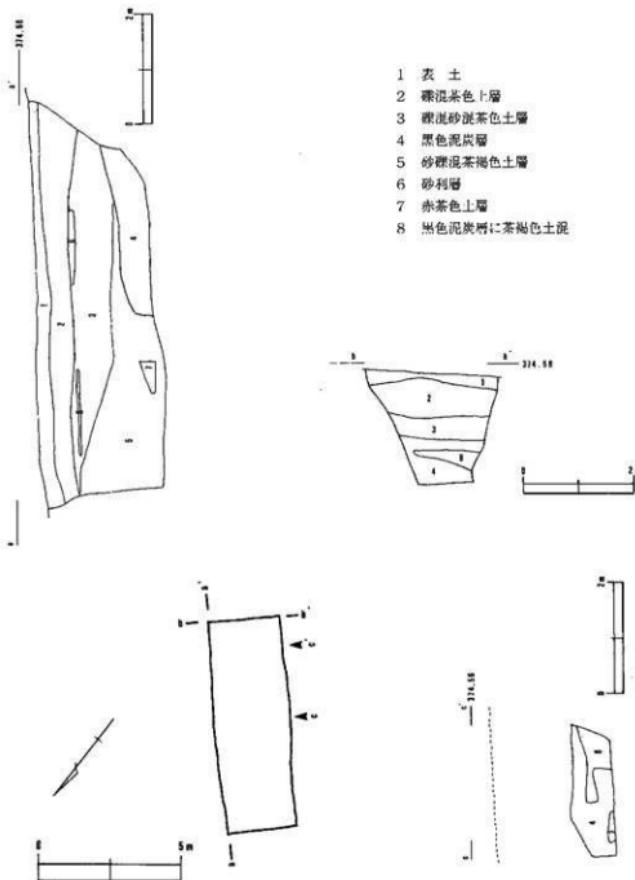
(表) 新野周辺の遺跡地名表(『中野市遺跡詳細分布図』より)

遺跡番号	遺跡名	所在地 大字・字	遺構・遺物	調査の有無 文獻	備考	
13	大円寺遺跡	三ツ和・南日向	(弥)中期人形埴輪刀斧			
14	沼ノ入城跡	間山・沼ノ入	(中)	89		
15	西山砦跡	間山・西山 三ツ和・北ノ庵	(中)	89		
16	人熊口影渡跡	三ツ和・北日影	(平)上師器、須恵器			
17	尊福寺跡	三ツ和・北日向	(中)藏骨器、五輪塔			
18	えびす山古墳	三ツ和・籠田、瀬波田	(古)円墳(径3m、高3m)			前方後円墳の可能性あり
19	三ツ和遺跡	三ツ和・籠田	(绳)打製石斧 (弥)後期土器 (平)土師器 (中)藏骨器			
20	瀬添遺跡	篠井・瀬添 三ツ和・赤沼、青森配	(弥)後期土器 (平)土師器			
21	篠井石館跡	篠井・山崎	(中)方形(一辺50m)	89		別称 内田城敷 (内田氏)
22	新保遺跡	新保・中野通	(平)土師器、須恵器			
			(古)円墳(径21m、高2.6m)			
23	金糞山古墳	新野・金糞山	合掌形石室 珠文鏡、五輪鏡、勾玉、管玉、丸玉、小玉、白 金、貝殻、劍、刀、矛、鐵、頭、綱、鐵石、鐵 鎗、鉄斧、留金玉、土師器、須恵器、人骨	有(T14年) 2. 3. 22		市指定史跡 (S 60.4.26指定)
24	新野1号古墳	新野・金糞山	(古)円墳(径16m、高2.5m)			
25	新野2号古墳	新野・金糞山	(古)円墳(径13m、高2.5m)			
26	行人塚遺跡	新野・行人塚、立原、金山	(平)須恵器			
27	小曾川城跡	新野・竜宮山、桃林山ほか	(中)青銅器、黒釉、白釉、陶器、古鏡、乘付	89.94		
			(绳)中期・後期土器、石器、打石斧、磨石斧、石匙、 石錐、石皿、石棒、敲石 (弥)住居址、後期土器 (古)土師器 (中)作居址、土器 土師器、須恵器、スタンプ状石器、土製紡錘 車、管子、鐵鍼 (中)一括埋納数(約6,350枚) (近)建物跡、井戸跡	有(H2.14年) 22.152		
28	新野塙跡	新野・前田、宮下、 日野岡ほか	(近)			
29	新野阿屋跡	新野・呂野岡				
30	新野上東城跡	新野・上東、瀬池下	(平)土師器、須恵器 (中)耳鼻器	有(S 58年)		
			(新)前期・中期土器、石器、打石斧、磨石斧、石匙、 石錐、敲石、環石、瑪瑙、石皿、石棒、石棒、磨石 (弥)住居址 (中)後期土器、人形埴輪刀斧、石器、石錐、鐵鍼、合口壺等 (古)住居址 土師器等、壺、蓋、器台、鍋鐵 (平)住居址 土師器、灰釉陶器、管状土錐、鐵斧、古鏡 (中)道路跡、滑滲	有(S 33.58. H3.4年) 22.23.28.33. 88.97.98.113. 116		
31	間山遺跡	間山・津島、石堂道下、宮 前、宮上、森下ほか	(平)土師器、堂址、前水跡、土堤、塚、灰堆 (中)陶器(束腰、青磁、白磁)、砾石、宋錢、慈弘、石 臼、五輪塔 (古)住居址 土師器等、壺、蓋、器台、鍋鐵 (平)住居址 土師器、灰釉陶器、管状土錐、鐵斧、古鏡 (中)道路跡、滑滲	有(S 53.54. 57年) 80.81.90		市指定史跡 (S 59.5.29指定)
32	岸梨遺跡	間山・岸梨、清水畑	(平)土師器	有(S 54年)		
33	真山城跡	間山・大久保、馬曲、蛇抜	(中)			伝城主真山氏
34	延命寺跡	間山・延命、南向平	(平)土師器、堂址、前水跡、土堤、塚、灰堆 (中)陶器(束腰、青磁、白磁)、砾石、宋錢、慈弘、石 臼、五輪塔 (古)住居址	有(S 53.54.57 年)		
35	柳人旗塚	間山・柳人	(中)	89		
36	赤尾坂舞臺	間山・舞台ほか	(中)	89		
37	道光塙跡	間山・道光ほか	(中)			
			(古)前方後円墳(全長55m、前方幅18m、 高4.5m、後円溝30m、高5.5m) 第1号棺(全長約6.3m、幅約2m) 斎薪品…铁劍、頭飾、鐵衛先、ヤリガンナ、管 玉、ガラス玉 第2号棺(全長約5.7m、幅約1.8m) 斎薪品…铁劍、ヤリガンナ、刀子 箱式清水式土器、铁劍	有(H9.11年) 148		県指定史跡 (II17.3.28指定)
39	寺上遺跡	更科・寺上	(平)土師器			
40	問瀬場遺跡	更科・問瀬場	(古)土師器			

第3章 遺構と遺物

第1節 遺構

本調査において検出された遺構はない。表土の下には大量の拳大から人頭人の礫と川砂層の堆積があり、遺物包含層である黒色土層はみられない。A16グリットのみ莢等が堆積した黒色泥炭層があり、大量の礫と川砂からも調査区内をかつて真引川が蛇行をくりかえしていたことを示している。



第4図 層序断面図

第2節 遺 物

今回の調査で出土した遺物は、縄文土器、土師器の小片数10点である。出土品のすべては黒色泥炭層から出土している。同層位で乱れた出土状態により他から流れ込んだものと考えられる。

参考文献

中野市教育委員会 「新野遺跡」 2003

中野市誌編纂委員会 「中野市誌（自然編）」 1981

(付) 新野遺跡について

新野の遺跡が初めて記録されたのは、金鏡山古墳以外の包蔵地では昭和28年刊行の長野県埋蔵文化財発掘調査報告書「下高井」であろう。その中で小野勝年氏は本道文明氏が字宮下付近で採集した縄文時代の石器について数行ふれている。

次いで昭和31年刊行の『信濃考古学縦覧』では、本道氏の石器に権原長訓氏採集の遺物を加え、次の2遺跡を記録している。

(本道氏採集) 宮下遺跡 (縄) 石鎌・打石斧・石匙・石錐・石皿・石棒

(権原氏採集) 新野遺跡 (上) 後期一糸切皿その他破片 (多)、(須) 後期一糸切皿その他破片 (多)

昭和56年刊行の『長野県史』になると、新野地区の遺跡は宮下遺跡と新野遺跡がまとめられ、次の3遺跡が記録された。

行人塚遺跡	(平) 須恵器
新野遺跡	(縄) 上器・石鎌・打石斧・磨石斧・石匙・石錐・石皿・石棒 (平) 土師器・須恵器
新野上東遺跡	(平) 土師器・須恵器、(中) 内耳土器

そして、昭和58年に新野上東遺跡で新野地区では初めての発掘調査が実施された。発掘地点は日野小学校の校地内と聞くが、期待されたほどの成果はなかったようである。大きな成果がみられたのは、平成元年の市道日野4号線改良工事に伴う新野遺跡の発掘調査であった。「長野県埋蔵文化財発掘調査要覧その6」によれば、概要は次のとおりである。(＊印は発掘通知等の事務文書から引用)

調査地	中野市大字新野字宮下481番地ほか (*480-3、481-2・3、483-5、484-4、485-3、509-4、510-3・10、517-3、518-4、519-3、520-6)
調査期間	平成元年9月25日から同2年1月14日
調査主体	中野市教育委員会
調査担当者	田川幸生 (*調査責任者・島田春三、顧問・金井汲次、団長・出川幸生、調査員・池田実男、事務局・小野沢捷、小林紀夫、徳竹雅之)
調査面積	1,554m ²
検出遺構	竪穴住居址2(縄文1・古墳1)、掘立柱穴(中世143・近世26)、ピット(弥生76・古墳78)、土壙(縄文30)、火床(中世1)、礫石(中世1)
出土遺物	古銭6,350枚(中世)、土器(縄文・弥生・土師器)

また、平成14年には真引川改修工事に伴う新野遺跡の発掘調査が実施された。その詳細については「新野遺跡—真引川改修工事に伴う発掘調査報告書」を参照されたい。調査地は平成元年の調査地より下手の、字宮下461-1から479-3にあたる。調査の結果、真引川の氾濫を幾度も受けながら、縄文時代中・後期、弥生時代後期、奈良・平安時代、近世の集落が長期にわたって存続していたことが明らかになった。

以上の結果を踏まえて、平成18年に『長野県中野市遺跡詳細分布図』が次のように改定された。ここでは古墳も加えておく。

No.	遺跡名	所在地（地字）	遺構・遺物
23	金鎧山古墳	金鎧山	円墳、合掌形石室、珠文鏡、五鈴鏡、勾玉、管玉、丸玉、小玉、白玉、貝輪、劍、直刀、矛、鎌、斧頭、錠、砥石、環鏡、留金具、土師器、須恵器、人骨
24	新野1号墳	金鎧山	円墳
25	新野2号墳	金鎧山	円墳
26	行人塚	行人塚・立道・金山	(平) 須恵器
27	小曾巣城跡	龍宮山・旗杭山	(中) 齐磁器・黒釉・白釉・陶器・古銭・染付
28	新野	前田・宮下・宮上・日野岡	(繩) 中期・後期土器、石鎌、打石斧、磨石斧、石匙、石錐、石皿、石棒、敲石 (弥) 住居址、後期土器 (古) 土師器 (平) 住居址、土壇、土師器、須恵器、スタンプ状石器、土製鍛錘車、管玉、鉄鏡 (中) 一括埋納銭 (近) 建物跡、井戸址
29	新野陣屋跡	日野岡	(近)
30	新野上東	上東・溜池下	(平) 土師器、須恵器 (中) 内耳土器

新野地区は間山扇状地の扇端部に位置し、地字は日野岡、前田、折岸、坂下、野竹、金山、立道、行人塚、閑下、下川原、宮下、漆原、襟崎、中新野、市道、窪田、日野、宮上、溜池下、上東、下東、籠田、右原、橋本、竜滝山、翠降山、旗杭山、龍宮山、金鎧山に分かれる。なお、扇頂部には間山地区が所在する。

間山扇状地は間山の雲井嶽（字道瀬山）から流れる真引川と、字横堀で分流する十二川によって形成されたもので、かなり急な傾斜地である。真引川は別に折無瀬川と呼ばれている。語源は扇状地にみられる伏流水による水無川からきているのであろう。事実、真引川は雨が降らないと極端に水位が減少するという。逆に、降水量が多いと氾濫を起こす川でもある。

新野の包蔵地遺跡のうち、行人塚遺跡は真引川下流の扇端にあり、山手に金鎧山古墳を始めとする古墳が立地する。一帯は水田で土地改良事業が行われた際、土器などが大量に出上したといふ。

新野遺跡は扇尖部にかかる位置にあり、現在の新野集落と重なる。背後の山手には小曾巣城、麓には新野陣屋が所在する。また、新野神社から剣と蓮鏡が出上しており、蓮鏡は鎮風の儀器になっている。

新野上東遺跡は十二川流域の扇端部に立地し、早くから知られている間山遺跡に隣接している。間山遺跡では縄文前期の土器・石器、弥生時代の土器・石器、合口甕棺、古墳時代の銅鏡・住居址、平安時代の土師器・灰釉陶器・管状土錐・鉄斧・住居址・古銭が発掘されている。

また、十二川流域で注目されるのは、建応寺の修驗に関係するものと思われる中世の「坊跡」である。伝承によれば、道光坊・武道坊・社光坊・阿光坊・南光坊・丹心坊・安心坊・善忍坊・達牛坊・三光坊・鳥道坊・石道坊などが山間に多数所在している。

なお、真引川と十二川が形成した間山扇状地は歴史的に重要な意味をもつ地域である。遺跡は新野・間山地区に区分して考えられず、間山扇状地全体のものとして究明されることはいうまでもない。

写 真 図 版



図版1 滞跡遠景



図版2 調査区全景（調査前）



図版3 作業風景



図版4 調査区1全景（調査後）



図版5 調査区1層序



図版6 調査区2(搅乱状態)



図版7 出土遺物1(縄文時代土器)



図版8 出土遺物2(土器)

新野遺跡報告書抄録

ふりがな	しんのいせき
書名	新野遺跡
編集者	吉原佳市
編集機関	(社)中野広域シルバー人材センター
所在地	〒383-0025 長野県中野市三好町1-4-6
遺跡所在地	長野県中野市大字新野字前田81番地
遺跡番号	中野市28
遺跡位置	北緯36°22'18" 東経36°43'07" 標高373~375m
調査期間	平成22年6月21日~6月28日
調査面積	30m ²
調査原因	市道篠井間山線拡幅工事
種別	散布地
主な時代	縄文中期、平安時代
主な遺物	縄文土器、土師器、
主な遺構	なし
調査指導	中野市教育委員会

新野遺跡

—市道篠井間山線の拡幅工事に伴う発掘調査報告書—

発行日 平成22年7月30日

発行者 中野市教育委員会

〒383-2192 長野県中野市大字豊津2508

電話 0269-38-3112

印刷所 ほおずき書籍株式会社

〒381-0012 長野市柳原2133-5

電話 026-244-0235

